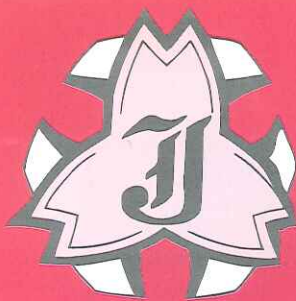


長崎県立大村城南高等学校育友会新聞



# 城南

OMURA JONAN  
HIGH SCHOOL

VOL.15

<発行者>

長崎県立大村城南高等学校育友会  
会長 井手 浩  
〒856-0835 長崎県大村市久原1丁目416番地  
TEL(代表)0957-54-3121  
FAX 0957-27-3056

<発行日>平成24年2月28日  
<印刷所>株式会社 つじ印刷

## 全国高等学校PTA連合大会

# 全国PTA研修会(北海道大会)

テーマ いのち輝け!がんばろう!日本



### 北海道の大地にふれて

育友会副会長 近藤 由美子

「いのち輝け」のスローガンのもと、第61回全国高等学校PTA連合大会北海道大会が、北の街札幌にて8月24日から開催されました。3月に発生した東日本大震災をうけ、被災地の復興とこれからの日本を担う高校生たちが、社会において自立できる人に育てるために私達も保護者力を付けることが大切だという言葉に共感しました。また、精神科医の香山リカ氏は、どこにでもいる問題のない良い子が、ある日突然豹変し様々な症状が現れてしまう例を挙げられ、「今の子は自分らしさを出すことが出来ず心はびくびくして疲れている。大人も自分の生き方に迷ったり、心身ともに疲れていたりすると、子どもを丸ごと無条件に受け止められない。まず大人が自分の人生を受け入れ、失敗・未練などのマイナスの部分も自分らしさと受け止め、心にゆとりを持って子どもに接してほしい。」とお話されました。震災ではたくさん尊い命が失われましたが、前旭山動物園園長の小菅正夫氏は、「生きる」ということは、未来への命をつなぐバトンタッチの場、命を大切にしたい次の世代へとつないでいくことが最低限の責任だ。」と強くお話しされました。余談ですが、おしどりの雄はとても浮気者だという話をされ、おしどり夫婦の校長先生と木佐賞副会長と私はとてもびっくりしました。

夢の様に過ぎていった3日間でしたが、雄大な北海道の自然にふれ、美味しいものを頂いて、「命」と笑顔に輝きが増した研修旅行でした。



精神科医 香山リカ氏

平成23年9月21日(水)

## 「城南生と語る会」

参加者の一言

毎年恒例となっている「城南生と語る会」は、生徒と保護者が、テーマにそって話し合う会です。本音で語り合えるというところで、他の親から、他の子どもから学べることも多く、いつも充実した会になっています。



### 3年生

#### 3・11東日本大震災 自分がその立場だったら

#### ↑生徒 ↓

正直重いと感じたが、多くの意見を聞いて、考え直すきっかけになった。  
大震災がきっかけで自衛官を希望したので被災地のために頑張りたい。  
風評など気にせず、逆に被災地のものを売ることがプラスになると思った。

#### ↑保護者 ↓

生徒達が、震災に対してとてもしっかりした意見を持っていて感動した。  
日頃の生活がいかに幸せかを再確認した。  
原発に対してしっかりと意見を聞け、生徒の成長に感心した。

### 2年生

#### マイブーム

#### ↑生徒 ↓

自分の親と意見が違って面白かった。  
保護者の方と自分のブームが同じだったこともあったので自分がおばちゃんみたいたなと思った。  
思っているよりも固苦しい場ではなかった。

#### ↑保護者 ↓

自分の考えを口に出ることが出来る素晴らしい生徒が多い。本音の話が出来たことが良かった。  
気持ちも体も変化していくと気を大事にしてもらいたい。  
親と面と向かって話せない人もいるのでこういう機会は良かった。  
たくさん保護者の方に参加してほしい。

### 1年生

#### 高校生活について悩んだとき 親や友達と相談できていますか?

#### ↑生徒 ↓

大人の意見が聞いて参考になった。  
親目線の話、納得いかない面もあったが親の気持ちが分かった。  
監視される存在ではなく頼ってほしい。  
もう少し語る会の時間を長くしてほしい。

#### ↑保護者 ↓

親が思っている以上にしっかりした意見を持っている子供たちがいる。  
自分から進んでハキハキとした受け答えができ、しっかりしていると思った。  
親に悩みを相談する生徒が少なかった。  
父親とのコミュニケーションの必要性を感じた。  
これからもぜひ続けてください。「まわりから見た城南」を生徒全員や先生も含めて話したい。なるべく多くの生徒、保護者に参加してもらいたい。





# 「親父の会」 餅アート鑑賞会

10月1日(土)

今年発足されました「城南親父の会」には、15人のお父様が参加されました。お昼には食品加工室をお借りしてソーセージを作り、夕方からは場所を竹松農場に移して、田んぼアートを鑑賞しながら出来あがったソーセージなどを焼いて頂きました。ソーセージ作りでは、手際のよいお父様方にびっくり!!さすがです。来年も行われると思いますので多くの方に参加を心よりお待ちしております。



## 『親父の会』について もっと学校と係わりを

育友会会長 井手 浩

去る10月1日、校内加工実習室にて、本校育友会父親会員による「ウィンナー作り」を催してみました。

本校育友会で、初めての試みでしたので、どうなるかとやや心配していました。そして、竹松農場での懇談会で自分達が作ったウィンナーをパーベキューにして、秋の夕暮れ、稲穂垂れる田んぼを眺めながら「乾杯」、父親の皆さんは、役員や学校長をはじめ、いろんな分野の先生方と楽しく懇談されておられたのを見て、「やってよかった」と思った次第です。

私がなぜ催したかということですが、役員として、正副会長あわせ4年目になります。まず、総会を含め育友会行事に参加が少なかったこと、そして父親の参加はもっと少なく、「小中学校では多かったのに・・・」。なんとか改善したいということがあり、高校のPTA研修会等では「親子の会話が少ない」という事柄がよく出てきます。それも、父親の方が多いんです。「もう高校生なんだから・・・」とか「卒業すれば一端の大人だ!」とかで突き放すのが良いか悪いかはわかりませんが、子育てに関す

る悩み、進学・就職等、まあ、そういうふうなことを同じ父親どうしで話して(呑みながら)みたかったんです。また、卒業すれば2年程で成人になる子育ての最後の締め括りの活用にもなるのではとも考え、興味がある人だったら集まりやすく、参加しやすい行事を作ればよいと思ひ催してみました。高校は、広域から生徒が集まってくるため、なかなか他の保護者とお話することができません。せっかく同じ学校に通わせる者どうしで、保護者の思い出にもなるんじゃないでしょうか。

当初、ウィンナー作って、どこかで乾杯だけの予定でしたが、いつの間にか「餅つき」の話がでていました。

ウィンナー作りの懇談会で、父親の皆さん、盛り上がりつついましたが、本当は準備が大変なんです。臼や杵、セイロに釜、その他諸々、学校に無い道具が多く、それをどうするかが問題でしたが、私が住む町内会や町内の皆様から貸し出して頂き、11月の城南祭に『おやじの餅屋』を出店することができました。

「学校創立70周年ということで開催したので、来年はどうなるかわかりませんが、今後、育友会行事に『おやじ』の皆さんの参加を願うものです。」



## 城南祭餅つき



### 餅処『OYAJI』開店

3年保護者 岡村 紀宏

今回創立70周年記念城南祭行事の一つとして親父の会主催の餅つきに参加させていただきました。天気も良く、9時半よりの販売開始に合わせ、蒸した餅米を餅つき機に入れ、半ばついた状態で白へ移し、それを3人の親父でつくわけですが、そこは会って2度目の人がほとんど。名前ももう覚え、いや、知らないまま。

息も合ったり合わなかったり。それでも心を込めておいしい餅ができるようにと思ひはひとつだったはず!!

つきたての餅を丸め、パックに詰め、用意ができた時点ではスムーズに行けそうな気配でしたが、販売開始とともにあつという間に長い列、用意していた3百パックもすべてなくなり、ついにはパックを入れるはずの袋に入れて対応。あまりの売れ行きに、うれしいやら、あわてるやら。

最後の餅も売れ、湯とり餅を樂しみにしていた親父たちもついた餅を「口も口に入れることなく、大盛況のうち餅処『OYAJI』閉店とあ







# 発足「親父の会」

## ソーセージ作り・田んぼ



**1年保護者 堂園 勇一**

案内を子供から渡され、とても興味深い内容でした。スケジュールも空いておりすぐに希望を出しました。昼間のウィンナー作りも丁寧に教えていただき完成したときは思わず「おうー」と声が出て感動しました。夕方からは想像していた以上に広大な竹松農場を見ながらのパーベキューで大変な盛り上がりでした。特に昼間の自作ウィンナーはとても美味しかったです。全般を通して、親父の交流の輪も広がり楽しい催しでした。またこのような会があったら参加したいと思いました。

おやじの会に参加をお願いします。と初めて聞いたとき、私は半信半疑で右を使えない自分に苛立ちを感じたものです。実際参加して、会長はじめ、皆さんいい方ばかりで、私の足りない所を手助けしてくださいました。この会を開催するにあたり、努力をしてくださったPTA役員、学校関係者の方々にごの場を借りて厚く御礼申し上げます。



先日、「親父の会」に参加しました。普段娘たちのことは母親にまかせっきりですが、「親父」という言葉にひかれ顔を出していることにしました。高校の調理室で、慣れないエプロンをつけてソーセージを作りました。最初は、ぎこちない手つき・雰囲気だったのが、作業が進むにつれ真剣な顔つきに変わってお互いに協力し合い作っていました。ソーセージが出来上がると、自然と笑顔になりました。簡単そうに思っていたのですが、やってみるととても難しかったです。それから、子どもたちが育てている田んぼへと移動し、先生方を交えていろいろな話をしました。学校がとても身近に感じられ、また何か機会があれば参加してみようと思いました。

### 親父の会に参加して

1年保護者 田島 正一郎



**3年保護者 松尾 幸彦**

当日は心配することなく天気恵まれ本日に安心しました。朝早くから井手会長始め、育友会の方たちも来られて着々と準備が行われていました。餅米が蒸しあがる前に臼や杵などが運び出され、餅つきと販売に向けて少し緊張しながらも気がが入っていました。餅米が蒸しあがってから早く、杵でつき終わると急いで小餅にし、あんこ餅は2個、と白餅は3個ずつパックに入れ販売しました。お陰さまで大勢のお客様に並んでいただき、あつという間に売れてしまいました。

### 城南祭での餅つきに参加して

2年保護者 宮園 英美



祭で、親父も楽しい思いができました。最後に親父の会のメンバーの方々、役員の方々、準備から後片付け大変ご苦労様でした。反省会まで楽しく過ごさせていただき、ありがとうございました。

親父の会が中心に活動するという事で、販売のほうも積極的に手伝いながらもあたふたする場面もあったようですが、声を出し釣銭を間違いないように渡していました。平山先生には何度も両替に行っていたけど助かりました。その後も2回目3回目と続行し、あんこ餅が途中で完売し、用意してあったバックも使い切り、後半はビニール袋に移し販売しましたが、お客様は増え続けお一人様1バック限りの販売となる場面もありました。



だが、大盛況の中、無事終了することができました。女子生徒の方も何人か杵を使ってつく体験をされましたが思い出し出ができたのではないかと思います。私も参加できたことにとても楽しめました。先生方や保護者の方々にとっても素直に親しみやすさを感じました。我が子も恵まれた環境の中で学校生活が送られていることにとても感謝しています。私たち親も子ども達を見守りながらサポートできるように努力していきたいと思っております。今後よろしくお願いたします。



# 訪問・体験しました

## 育友会研修会 H23.10.14

### ～参加した保護者の方の感想

毎年、貸切バスをチャーターし、福岡や長崎、佐賀・・・の大学・短大・専門学校などに訪問に行く育友会研修会は、ショッピングや観光も取り入れられ、とても有意義で楽しい研修会になっています。

今年の研修会は、福岡の専門学校と防災センターに行きました。昼食タイムには、リニューアルした博多駅で、ショッピング(ウィンドーショッピング?)や、美味しいお土産の買い物もして十分満喫できました!!



### ◎西鉄国際ビジネスカレッジ <設置学科>

- ・ホテル科・ブライダル科・トラベル科
- ・鉄道科・エアライン科・エアポート科
- ・夜間総合観光科

・西鉄国際ビジネスカレッジでの大村城南を卒業した生徒の話聞いたことがとてもよかったと思います。緊張しながらもたくさんの質問に答えてくださって、また、半年通学してとても成長した卒業生に感動しました。

・最初に訪問した西鉄国際カレッジは、どういふところか全く知らずに行きましたが、専門学校にもいろいろな事を学べるところがあるんだなと思いました。「ホテル科、ブライダル科、トラベル科、鉄道科、エアライン科、エアポート科」等、全然、そういう専門学校があることすら知らなかったので、幅が広がったような気がしました。



### ◎福岡市民防災センター <一般体験コース>

- ・ガイダンスシアター・強風体験
- ・地震体験・消火体験・火災体験 等

・防災センターは、火災体験、消火体験、強風体験、地震体験等、日頃体験することが出来ないことを体験できてよい経験になりました。みんなとも仲良くなって、とても楽しい1日になりました。

・消防訓練で、初めて消火器を使って自信がついた。

・防災センターでの訓練を忘れることもなく、いざというときに動けるようになればいいと思います。



## 平成24年度 育友会総会の

### ～お知らせ～

平成24年5月13日 (日曜日)

### 編集後記

今回は、井手会長呼びかけでスタートした「親父の会」を特集してみました。ソーセージ作りだけでなく、「城南生と語る会」では母親とは違う目線で話をしていただき、城南祭での餅つきなど、お父様方が活躍される場面の多い一年だったように思います。最後に、今回ご協力いただいた皆様、広報委員の皆様、ありがとうございました。



その子のことで頭がいっぱいで他のお子様には手が行き届かなかったということでした。私の主人が4人兄弟なのですが、一番上の姉が障害があり、姉に手がかり、とても4人子どもを育てるのは大変だったとお姑さんに聞いていたからです。私は普通に3人の子どもを育てていますが、それでも大変なのに...。他の3人の発表の方も素晴らしい内容ばかりで、感動しました。この研修を通して改めて子育てに関してもっと意識を高め今後の参考にしたいと思います。ありがとうございました。

次に研究協議(体験発表)として4人の方々が、自分の体験したことを発表されました。皆さんそれぞれ自分の子育てについて発表されましたが、その中で私が一番心に残った話は、「番上のお子様は障害があり、今後の子育てに参考になる内容ばかりでした。」

## 諫早・大村・東彼地区公立高等学校 P T A 研修会に参加して

3年保護者 新地 真由美

去る11月27日に波佐見町総合文化会館で、諫早・大村・東彼3地区のPTA研修会が行われました。

最初にアトラクションとして日ごろから郷土芸能に励んでいる子ども達の太鼓の演技がありました。子ども達が太鼓を打つ度に心に響くものがあり、素晴らしいものでした。次に、「甘やかさない教育」と題して講師の廣瀬修先生による講演がありました。まず挨拶をすること、家庭の中の組織作り、例えば、当番制にすることやコミュニケーション能力、自主性や協調性などで甘やかさない教育、自律できる子どもを育てるなど、今後の子育てに参考になる内容ばかりでした。